



# 学校だより

令和6年10月吉日  
上越市立有田小学校  
校長 野田 晃

## 「やらされる」から、「やりたい！」へ

秋晴の下、マラソンデーを実施することができました。ご声援、ありがとうございました。「自分でめあてを決めて、自分で取り組む。」とてもよい子どもの姿をたくさん見ることができました。全力を出し切る姿。笑顔で楽しく走る姿。苦手だけれどタイムチャレンジに挑戦する姿。ランランタイムで競争せず自分のペースで走りぬく姿。どの姿も、このマラソンデーで求めていた姿です。タイムチャレンジかランランタイムか、子どもが自分で選択し、自分でめあてを立てて取り組むことができるようにしてよかったと思います。

タイムチャレンジのよさは、ライバルと競争すること、ベストタイムを目指すこと、全力を出すこと、苦しくても乗り越えて走ること、だと思います。皆さんの中には、様々な大会に出たことがある方も多いでしょう。スタートする時のドキドキ感。終わったときの達成感。負けたときの悔しさ。思い出に残っていることと思います。子どもたちにとって大切な学びになったと思います。

ランランタイムのよさは、競争しないこと、ベストタイムを求めないこと、全力を出さなくてもよいこと、走るとは楽しいこと、走ることが恥ずかしいことだと思わなくてよいこと、だと思います。皆さんの中には、市民マラソン大会等に参加している方もいらっしゃると思います。優勝とか自己ベストタイムを目指している人も中にはいますが、参加しているほとんどの人はタイムや順位などあまり関係なく「走ること自体が楽しい」のです。走り終わったときの爽快感や達成感、心から湧き上がる幸福感がよいのです。

どちらのよさも生かすことができるマラソンデーになったと思っています。ご理解ご協力、ありがとうございました。そして、一緒になって、走ったり、笑ったり、むきになったり、喜んだり、心をかよわせ、かかわっていただきました。「走ること」に対して、心に火を灯した子もたくさんいると思います。よいイメージをもてた子も多いと思います。

私たちは、子どもたちにやらせたいことがたくさんあります。もっと勉強してほしい。もっと運動してほしい。もっと良質な経験をしてほしい。もっと規則正しい生活習慣を身に付けてほしい。もっと仲のよい友達を作ってほしい。もっと努力してほしい。もっと、もっと。

しかし、私たちがやらせようとしても、うまくいかないことが多いのではないのでしょうか。それよりも、やらせようとするほど、嫌がったり逃げたりすることが多いのではないのでしょうか。私も子どものころ、同じだったと思います。「やれ」と言われれば言われるほど反発していました。大人になった今、「もっとやればよかった」と後悔することばかりです。ただ、一人の人間として自分の心を守るために反発したのだろうとも考えます。誰かの言いなりでは、自分がなくなりますから。

入学したばかりの1年生は「勉強したい」「運動したい」「仕事したい」とやる気に満ちた子ばかりです。しかし、学年が上がるに従って「やりたい」という強い意欲がある子が減っていきます。「やらされている」と感じる子どもが増えていくからではないのでしょうか。

「やりたい！」という気持ちを大切に育てるために、子どもが自分や友達のことを真剣に考え、よりよく自己選択、自己決定できる教育活動を目指していきます。